

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：33917  
 研究種目：挑戦的萌芽研究  
 研究期間：2014～2016  
 課題番号：26580119  
 研究課題名(和文) Creating Authentic Classroom and Online Intercultural Business Communication Programs  
 研究課題名(英文) Creating Authentic Classroom and Online Intercultural Business Communication Programs  
 研究代表者  
 O・Connell Sean (O'CONNELL, SEAN)  
 南山大学・総合政策学部・准教授  
 研究者番号：40580824  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

**研究成果の概要(和文)：**本研究の目的は、大学生の異文化間ビジネスコミュニケーションのスキル、また異文化におけるビジネスに対する理解を高めることを目的とした教室用及びオンライン用のカリキュラムを開発することである。学生のニーズ分析、外資系企業を対象にしたインタビューや国内外の教育機関の異文化間ビジネスコミュニケーションカリキュラムを調査し、カリキュラム開発に取り組んだ。よって、今年度より二つの新科目の授業を開講できるようになった。その他に、外資系企業を対象にしたディスカッション型のレクチャーシリーズも学生に提供できた。学生による評価が大変高く、英語及び異文化対応力を活かせる就職計画にも役立っているという声が多かった。

**研究成果の概要(英文)：**The main objective of this research was to develop authentic material for the enhancement of in-class and online learning in the field of intercultural business communication and understanding. After collecting data from student needs-analysis, foreign affiliate company interviews in Japan as well as reviewing current curricula available in this field both in Japan and abroad, the research team used the data to worked the development of material. As a result, this year two new courses (Intercultural Business Analysis and Career Path English) have been opened. In addition, during the research period, foreign affiliate company guest lecturers provided further insight to the students about the skills required for their workplaces. Students have given a high evaluation of all activities presented to them saying that the content has been especially helpful in career planning from the view of utilizing their English and intercultural competency.

**研究分野：**異文化間ビジネスコミュニケーション

**キーワード：**異文化間ビジネスコミュニケーション カリキュラム開発 オンライン学習 異文化対応力

### 1. 研究開始当初の背景

この研究は2014年度から2016年度に渡り行った。代表者(総合政策学部准教授)と分担者(外国語学部教授)が研究チームを作り、英語力を活かせる学生の就職計画や社会のニーズにあった異文化間ビジネスコミュニケーションのカリキュラム開発についてどうであるべきか、先行研究を調べたり、学生のニーズを調査したりし、本研究開始に至った。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、大学生の異文化間ビジネスコミュニケーションのスキル、また異文化におけるビジネスに対する理解を高めることを目的とした教室用及びオンライン用のカリキュラムを開発することである。

### 3. 研究の方法

研究チームが調査から得られたデータをグランディッド・セオリー・アプローチ(GTA)に基づき、質的にまた量的に重視したデータを集めた。まず、本学において、英語力を就職に活かしたいという学生を集め、英語力以外に必要となる知識やスキルについてアンケートとインタビューも行った。先行研究データと本学の調査データをベースに、国内外の大学等の教育組織を対象とし、異文化間コミュニケーション・理解のカリキュラム開発及び実施、学習目標と成果を調査した。また、担当教員及び履修学生のインタビューも多数行った。その他に、在日外国系商工会議所を数回訪問し、20数名の会員を対象に、インタビュー調査を行い、その中から5名程のゲスト講師を招き、本学内にてレクチャーを公開し、その効果について学生にアンケートを実施した。

### 4. 研究成果

国内外の大学等の教育組織や在日外国系商工会議所のメンバーを対象にした調査・インタ

ビューを参考に研究分析を行った。多くの意見として、大学生が英語のスキルにプラスをつけられないといけない時代になっていることがわかり、特にその中で言葉の裏にある文化(習慣・価値観・考え方・コミュニケーションの取り方等)の影響をもっと理解するべきだという主張が多かった。

英語や異文化対応力を就職に活かしたい学生のために、2015年度及び2016年度に計5回に渡る「外資系就職に向けての必勝ノウハウ」というレクチャーを実施した。多国籍職場で活躍する日本人と外国人によるレクチャーを特徴とし、一方的に講義するだけでなく、参加型の授業として講師・学生間のディスカッション形式で進めた。終了後の学生インタビューの結果では、「どのようなスキルを身につけるべきかがはっきり伝わり、大いに役立つものだ」という発言が多かった。なお、レクチャーに協力してくれた企業から職場体験(無償形式)の実験的な機会も得られた。結果、レクチャーシリーズに出席した学生を対象に2015年度及び2016年度の春休みに中部地方を拠点とする外資系企業の内、7社ほどでの2週間職場体験を実施することになった。合計15名の学生が参加でき、終了後に学生をインタビューし、授業開発に活かせるデータを集めることができた。職場体験に参加した学生は「実社会の体験ができてよかった」「言葉と文化の関係を肌で感じた」「英語のスキルだけじゃなくて、多国籍職場に対する心構え、態度や必要とされる柔軟性を考えさせられた」など、反応がとてもよく、異文化間ビジネスコミュニケーションに対する勉強意欲を示す発言が多かった。

これらのデータ分析を基に、次に異文化間ビジネスコミュニケーション授業開発につながる準備を行った。まずは、データから得られたビジネス単語リスト(和英)の作成から始まった。次に、事前にデータ使用を承諾して

くれた企業のインタビューデータを反映した事例をリーディング教材とタスクシート形式で教材として作成した。それから、ゲストレクチャーのビデオとそれに対するタスクシートを整理した。これらも全て使用承諾が得られたものであった。こういった教材作成は今年から新たに開く「異文化間ビジネス分析」及び「CAREER PATH ENGLISH」といった授業に使用すると同時に、オンデマンドで専用のホームページ (<https://socnanzan.wixsite.com/ibcnanzan>)にも載せる。このホームページには、上記に述べたゲスト講師のレクチャーのビデオとタスクシートをアクセスできるもので、タスクシートを完了した学生は本研究の代表者にメールで送り、添削してもらおうという形式であり、定期的にビデオ教材とタスクシートを更新し、学生の自律学習を促すことが一番の狙いである。なお、ゲストレクチャーも学生の間で大変好評であったため、今後授業化していく準備を始めている。授業の運び方としては、隔週に外資系企業の方を呼び、多国籍職場にどのような人材が必要なのか、業務の進め方、コミュニケーションの取り方などをテーマ化し、隔週によるレクチャーの内容をその翌週に振り返って分析するという形式にする。よって、学生の異文化間ビジネスコミュニケーション能力及理解が高まることが期待できる。また、もう一つの開発課題として、単位認定となるキャリア支援科目の中に「外資系企業インターンシップ」というものを立ち上げる計画をしている。

教室学習及びオンライン学習によって今後どのような情報や教材が一番適するかについて調査の必要性があるが、今回の試みに参加した大多数の学生は「今後の就職計画に役立っている」と感じ、「求められるスキルと知識が明確になって、学習目標を設定しやすくなっている」と答えていた。今後もそういっ

た声やニーズに応えるべく、さらに授業の内容を強化していく。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

O'Connell S., & Cripps, A.

(2016). Incorporating a Global Perspective: Intercultural Learning Through Work-Experience Projects. Proceedings of the 3rd Teaching & Education Conference , International Institute of Social and Economic Sciences (IISES) pp.189-197 (査読有)

O'Connell S., & Cripps, A.

(2015). Global-Themed Internships: Taking the Intercultural Learning Experience Out of the Classroom. Conference of the International Journal of Arts and Sciences , International Journal of Arts & Sciences, Vol.8 (2) , pp.35-41 (査読有)

O'Connell, S.(2014). University

Curriculum Globalisation: Developing Intercultural Business Communication and Understanding Courses at a Japanese University. The CLaSIC 2014 Conference Proceedings , The CLaSIC 2014 Organising Committee. pp. 372-378 (査読有)

[学会発表](計3件)

O'Connell, S., & Cripps, A.

(2016). Incorporating a Global Perspective: Intercultural Learning Through Work-Experience Projects. 3rd Teaching & Education Conference, Barcelona , International Institute of Social and Economic Sciences. バルセロナ、

スペイン

O'Connell S. (2015). Global-Themed Internships: Taking the Intercultural Learning Experience Out of the Classroom. *International Journal of Arts & Sciences* ' (IJAS) International Conference for Teaching and Education , *International Journal of Arts & Sciences* (IJAS).ブリュッセル、 ベルギー

O'Connell S. (2014).University Curriculum Globalisation: Developing Intercultural Business Communication and Understanding Courses at a Japanese University . The Sixth CLS International Conference CLaSIC 2014 Knowledge, Skills and Competencies in Foreign Language Education , Centre for Language Studies (CLS), シンガポール国立大学、シンガポール

〔その他〕(計1件)

<https://socnanzan.wixsite.com/ibcnanzan>  
(準備中で、2017年度の夏季に公開する予定)

サイト名称 : *Nanzan University: Intercultural Business Communication & Understanding*

サイト内容 : 異文化間ビジネスコミュニケーション及び理解に関連する教材サイト(タスクシート、レクチャービデオ教材も含む)

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

オコネル ショーン (O'CONNELL SEAN)

南山大学総合政策学部 准教授

研究者番号 : 40580824

### (2)研究分担者

クリップス アントニー (CRIPPS ANTHONY)

南山大学外国語学部 教授

研究者番号 : 20352437